上野動物園　見どころ新聞

ZOO TODAY

9月号

（No.503　2026年9月1日発行）





ゴリラとスマホの関係性…①

ニシローランドゴリラは、シルバーバックと呼ばれる１頭のおとなオスを中心に、複数のメスとその子どもから成り立つ群れで暮らしています。まずは、このシルバーバックを探してみましょう。名前の通り背中が白っぽく、体が圧倒的に大きいです。さらに腕にフサフサの毛が生えていることで体がより大きく見え、この立派な風貌で他のオスを牽制します。

９月２４日は「世界ゴリラの日」です。ゴリラはスマートフォンにも使われる希少金属の採掘にともなう森林伐採によって数を減らしています。この日を機会にスマートフォンを長く大切に使うことや、適切にリサイクルへ出すことなど、ゴリラを守る行動を考えてみませんか？

⁘ゴリラの日イベントの詳細は公式HPをご覧ください➡

公式HP



スマトラトラの双子、自立の練習中！…②

７月に１才となった双子は、８月１２日から母親と分かれ、２頭での生活となりました。現在は他のトラたちと交代で展示場に出ています（時間はランダム）。

母親と一緒の頃は単独行動もよく見られましたが、双子だけになった直後の数日は２頭で寄り添う時間が少し増えました。それでもいずれ訪れる独り立ちに向けて、その関係も変わっていくでしょう。

レスタ（メス）のほうがやや適応力があるようで、無邪気に牛骨にもかぶりつくのに対し、ベラニ（オス）はレスタの行動や周囲の様子をよく見ています。そんな個性もあわせて観察してみてください。

雪のない季節に生まれるヒナ…③

７月２６日にスバールバルライチョウのヒナが３羽ふ化しました。キジ科の鳥らしく、ヒナはふ化したときから目が開き、羽毛に覆われ、歩くことができます。そしてヒナを連れて行動するのは母親の役割です。

スバールバルライチョウは、雪の季節には白く、夏には褐色の羽毛に換わります。夏に生まれるヒナも、親と同じく地面に紛れやすい色です。また、寒さに耐えられるよう足先まで羽毛に覆われているのも親と同じです。そして寒くなる１１月頃には、親もヒナも、ともに白い羽に生え換わります。




父親とヒナ

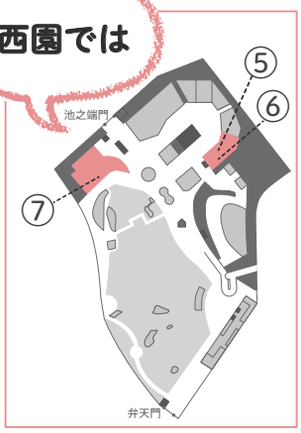
日本の鳥Ⅰ：コジュケイのヒナ成長中！…④

７月２５日、コジュケイが１羽ふ化しました。こちらもスバールバルライチョウと同じキジ科ですが、その仲間では珍しく父親も子育てに参加します。

８月下旬現在、ヒナは母親の羽毛の中で休んだり、父親のあとを歩いたりします。両親とともに行動し、自分で羽づくろいをする一方、親からしてもらうこともあります。この羽づくろいは、体を清潔に保つだけでなく、コミュニケーションでもあると考えられています。

⁘オスは足の後ろに突起（けづめ）がある

西園では



9月13日は「国際スローロリスの日」…⑤

「国際スローロリスの日」はスローロリスの保全を考える日です。当園では、東園の「夜の森」でスンタスローロリスを、西園の「小獣館」でレッサースローロリスをそれぞれ飼育しているので観察してみましょう。スローロリスは夜行性のサルの仲間で、目が大きく発達しており、暗い中でも周りを見ることができます。前足と後ろ足のどちらも親指が他の指から離れているため、枝をしっかりつかんで体を安定させます。そして「スロー」という名のとおりゆっくり動くことで、敵に気づかれにくくしていると考えられています。彼らは、ペットとして密猟されたり、森林伐採によって生息地が失われたりして、数を減らしている現状にあるのです。


レッサースローロリス



小獣館１階：木をかじるサル…⑥

野生のコモンマーモセットは、発達した前歯で木の幹に傷をつけ、中から出てくる樹脂や樹液を食べます。この行動を動物園でも引き出すために、樹皮が柔らかいスギの丸太に小さな穴を開け、中に樹脂を詰めたものを縦にして、展示場に吊るすようにしました。するとマーモセットは、丸太につかまりながら歯で樹皮を剥がしたり、穴をかじったりなど、野生と同じような餌の食べ方をするようになりました。不定期ですが、午後に観察しやすいかもしれません。

両生爬虫類館：ご長寿！？ガラパゴスゾウガメの水場利用 …⑦

ガラパゴスゾウガメの太郎（オス）は、現在推定 97 歳です。本種は野生で 100 年以上、飼育下では 150 歳前後まで生きた記録があります。人間から見るとご長寿ですが、まだまだ長い生涯の途中かもしれません。
太郎は展示場の陸地で過ごすことが多い一方、奥にある水場も利用します。リクガメなので泳ぎませんが、水を飲んだり、体を浸したりする姿が見られます。ガラパゴス諸島では雨の少ない時期があるため、野生のゾウガメは雨の後にできた水たまりやくぼみに残った水など、限られた水を活用しています。



よくある質問
前号アンケートに寄せられた質問にお答えします

Q. 動物たちが食べている魚の種類はなんですか？

A. 動物の大きさや生息場所などにより、さまざまな種類の魚を与えています。

（１）魚のサイズ

動物の体の大きさに合わせて、さまざまなサイズの魚を与えます。
例）
アサラシ…**アジ**（大）・**サバ・ホッケ**
カワウソ・ペンギン・トキ類…**アジ**（小）・**ワカサギ**
インカアジサシ…**キビナゴ**

（２）淡水魚も使用

動物園での餌にはおもに海の魚を使用しますが、淡水の池や川などでくらす動物には、淡水魚も与えます。
ハシビロコウ…**コイ**
カイツブリ・アカショウビン…**モツゴ**

（３）生きた魚か死んだ魚か

ほとんどの動物には死んだ魚（でも新鮮です！）を与えますが、ハシビロコウは、生きた魚のほうが積極的に食べてくれます。また、カイツブリには潜水、アカショウビンには飛び込みなど、生きた魚を捕らえる本来の採食行動をとらせる必要があるため、前項の魚を生きた状態で与えています。
他の動物にも、同様の目的で生きた**ドジョウ**などを与えることもあります。


ハシビロコウ

＼紙面向上のため、簡単なアンケートにご協力をお願いします／
アンケートに答えた方に紙面掲載動物のオリジナルデータをプレゼント！

発行：（公財）東京動物園協会　制作：上野動物園
◇無断で複製・転載しないでください　◇紙面に関するご質問等は教育普及係 解説班へ（03-3828-5171）

公式X(Twitter)　公式Instagram